

# 大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m<sup>3</sup>あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )		
		2/14-2/21	2/21-2/28	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.063	0.031
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.033	0.019
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.030	不検出
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.074	0.140
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.044	0.053
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.058	0.037
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.064	0.030
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	0.013
		セシウム137	0.069	0.058

測定地点		放射能濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )		
		2/14-2/21	2/21-2/28	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.062	0.041
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	不検出	0.020

検出限界値はおおむね0.02～0.03mBq/m<sup>3</sup>の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

渡邊正己京都大学名誉教授  
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説

第80回目  
大気浮遊じん放射能測定結果の解説  
(平成29年2月14日～平成30年2月28日)

平成30年2月14日～平成30年2月28日の間の南相馬市における大気浮遊じんに含まれる放射性セシウム137の濃度は、平均0.046mBq/m<sup>3</sup>と低い値で推移しており、測定地点の違いによる差も認められず、健康影響を心配する必要はありません。南相馬市では、住宅地区の除染が平成29年11月に完了しており、大気浮遊じんの放射能濃度もさらに低下が期待され、安心して日常生活をおくっていただけたと思います。